

みんなに太鼓にふれてもらいたい！



和太鼓ユニット 空風 -Karakaze-

かとうみさき しんじ
加藤美咲さん 慎二さん

「最初はなんとなく始めた太鼓でした」と笑顔で話してくれた慎二さん。

みの〜れと共に生活するスタイル

のすすめ

No.143

元号が平成から令和に変わりました。みの〜れの花壇もペチュニアのピンクの花の中に白い花で『令和』の文字が皆さんを迎えてくれます。心地よい風が日本中を若葉の色に染めて木陰が恋しい季節になりました。この時期しか見られない水田に張られた水が鏡になる水鏡に映る景色も素晴らしいですね。今回は和太鼓ユニット『空風 -Karakaze-』で活躍中の小美玉市納場地区にお住まいの加藤慎二さん、美咲さんを取材します。

加藤慎二さん、美咲さんご夫妻は小美玉市にある和太鼓の団体で知り合い結婚、出産・和太鼓演奏から少しの間離れていたけれど、子ども達も大きくなってきて、3年くらい前から千葉県（茨城県寄り）まで通って県外の演奏などに参加していました。今年の1月から二人で『空風 -Karakaze-』活動を始めました。

慎二さんに『空風』の名前の由来を聞いてみると、「関東地方に吹く、からっ風が筑波山の山も越える勢いのある和太鼓の音色を聞いてもらいたいという奥さんの強い思いからです」と答えてくれました。大太鼓の一本打ちのコンテストに出場して最優秀賞に輝いた慎二さんは、「一本打ちの方は私がチャレンジしています。プロ、アマ、混合戦が熊本、静岡、埼玉であり出場して熊本、静岡の大会は日本一になりました。長野の大会は6月の下旬に開催されシードで出演します。北海道の大会は8月の中旬に室蘭で開催されます。文部科学大臣賞も授与される大きな大会です」と話してくれました。

「一本打ちは3分前後の演奏で、心技体の三項目が全国的な基準になっています。全力で演奏するので3分間は短いようで長いです。打ちはじまると私の場合は緊張しないんですけど、ホールだと大体1000人くらいのお客様の前で演奏します」と話します。

美咲さんも応援に来るのか？と聞いてみると、「予選、本選とあるので、本選が通った時は連絡して来られる範囲で来てもらっています」と慎二さん。

『空風』としての活動は、「地元で演奏を聞いてもらいたいので、空の駅そ・ら・らや老人ホーム等で演奏させていただいています。二人と太鼓で知り合った人たちにお声がけして(他のグループに入っている方です)市外の団体さんと垣根を越えて演奏することもあります。基本は二人で・・・」ということなんです。

美咲さんは、「家では太鼓の話はほとんどしないですね。二人なのでいつ練習しようか？など予定は立てやすいですね」と話し、夫婦なので息はぴったりですね？と聞

いてみると「どうなんだろう？(笑)合っているらしいです。二人で練習にきている間は私の両親が子ども達の面倒を見てくれていたのでいい環境の中にいると思います。子ども達は堅倉のお祭りのお囃子練習に参加してお祭りにも参加しています。親子四人で太鼓ができる日がくるかな？」と笑顔で話してくれました。

「これから先、せっかくやるならいいものを見せていきたい・・・一杯やっていきたいと思う。できる範囲で学校へ指導に行くこともあります。大太鼓の指導は加藤さん！と言われることもあるのでスケジュールが合えば出かけて行きます。段々には子ども達に和太鼓を受け継いでもらえたらいいなと思っています」と慎二さんは話してくれました。

いつの日か家族四人で、みの〜れのホールや空の駅そ・ら・らで和太鼓の演奏をしている姿を観ることができたらいいな・・・ほっこりとした気持ちになりました。